

一 ぼくのおぼえ

有島武郎

一

ぼくは小さいときに絵をかくことが好きでした。ぼくのかよっていた学校は横浜の山の手というところにありましたが、そこいらは西洋人ばかり住んでいる町で、ぼくの学校も教師は西洋人ばかりでした。そしてその学校の行き帰りにはいつでもホテルや西洋人の会社などが並んでいる海岸の通りをとおるのでした。通りの海ぞいに立ってみると、まっ青な海の上に軍艦だの商船だのがいっぱいならんでいて、煙突からけむりのでているのや、檣から檣へ万国旗をかけたのやがあって、眼がいたいようにきれいでした。ぼくはよく岸に立ってその景色を見わたして、家に帰ると、おぼえているだけをできるだけ美しく絵にかいてみようとしました。けれどもあのすきとおるような海のあい色と、白い帆前船などの水ぎわちかくにぬってある洋紅色とは、ぼくのもっているえの